秋葉原無差別連続殺傷事件

2008年の6月8日、東京・秋葉原で起きた無差別連続殺傷事件。ネット上では容疑者Kを神と賞賛する書き込みや悪戯の犯行予告が掲示板に書き込まれ、逮捕者が出たことも大きな問題となりました。この映画では、容疑者Kにある種の共感をしてしまった女性の不安や葛藤を軸に、事件についての識者の言説や、文学作品からの引用、酒鬼薔薇事件など過去の凶悪犯罪への言及も盛り込みながら、現代の私たちに潜む「心の闇」や、「生」の在り方を描いていきます。

郊外への眼差し（現代日本の風景）

映画の舞台となるのは、東京・秋葉原近辺から、つくばエクスプレスや常磐線で結ばれた千葉・茨城などの、いわゆる「郊外」の風景です。「郊外化は場所の固有性を失わせる」「犯罪の温床になっている」など様々な問題を指摘されつつも、もはや現代に生きる私たちにとっての原風景となりつつある「郊外」。この映画では、私たちが生きるその場所の現実を真正面から捉え、ただ肯定するのでも否定するのでもない、新たな「郊外」との関わり方を模索しています。

カメラワーク（揺れるリアリティ）

監督の佐々木友輔は、5年前からライフワークとして郊外の撮影を開始し、膨大な映像記録を撮りためてきました。そこで培われたカメラワークは、普段は見過ごしてしまっている当たり前の風景にもう一度目を向ける契機となり、また、その場所に生きる私たちの心象風景をも映し出します。SF・文芸評論家の藤田直哉氏に「この空虚で荒廃した世界で幽霊のように彷徨っている自分の孤独と恐怖を徹底して体験させる」と評されたこのカメラワークも、本作の見所のひとつです。

夢ばかり、眠りはない

秋葉原通り魔事件を扱った「風景」映画、一夜限りの上映。

ある女性映像作家が残した日記とビデオテープ。そこには、2008年に起きた秋葉原無差別連続殺傷事件によって壊れていくひとりの人間の姿があった。「昨日、君の夢を見たよ――。」彼女は眼前の風景に、容疑者Kが見ていたかもしれない景色、そして親友のKと共に見た景色を重ね合わせながら、茫漠とした郊外を彷徨い歩く。現実と虚構が入り交じった、夢のように儚い風景映画。事件から2年の時を経てついに公開。

制作者からのメッセージ

秋葉原で事件が起こった時、「自分も同じことをしていたかもしれない」という不安を感じた人は少なくないのではないでしょうか。「同じこと」と言っても表出の仕方は様々です。その感情を吐き出すことが出来ないまま心の内に抱え続ける人も居るでしょうし、自分自身への暴力に向かう人も居るでしょう。私は、そういう不安を抱えた人たちと「共に悩み、共に考える」ことが出来ないかと考えました。秋葉原の事件に対して、今でも無視出来ない「何か」を抱えている方に、ぜひ観て頂きたい映画です。

佐々木友輔（ささきゆうすけ） 1985年神戸生まれの映像作家。主な上映に、バンクーバー国際映画祭、ロッテルダム映画祭、ロンドン映画祭など。現在、東京芸術大学大学院 博士後期課程（先端芸術表現専攻）に在籍中。

映画「夢ばかり、眠りはない」 監督：佐々木友輔
メディア：DV／上映時間：113分／制作年：2010年

■開催日：2010年 6月14日（月）
■時間：開場18:30、開演19:00（トーク21:00～）
■場所：UPLINK FACTORY（東京都渋谷区宇田川町37-18 トツネビル1F）
■料金：当日1500円、予約1300円（ドリンク代込み）
■トークイベント：映像の身体、郊外の映画
渡邉大輔（映画研究者）×藤田直哉（SF・文芸評論家）×佐々木友輔
■ウェブ：http://yumenemuri.web.fc2.com

この映画・上映についてのお問い合わせ、ご取材の申し込みは以下の連絡先までお願い致します。

E-MAIL：qspds996@gmail.com
PHONE：090-6069-2846
TEL：0297-74-0809（代表：佐々木）